企画県土警察常任委員会資料

（平成２２年７月２１日）

【 その他報告事項 】

１　平井鳥取県知事訪露（太平洋経済会議等ウラジオストク訪問）の
結果について　【交流推進課】　・・・　１ページ

２　モンゴル中央県の雪害に対する見舞金の贈呈について
【交流推進課】　・・・　３ページ

３　世界ジオパークネットワーク委員による現地審査日程について
【観光政策課】　・・・　４ページ

４　韓国ドラマ「アテナ」ロケ受入のための準備状況について
【国際観光推進課】　・・・　５ページ

５　境港への国際クルーズフェリー誘致に向けたシンガポール企業との
連携推進について　【国際観光推進課】　・・・　６ページ

文　化　観　光　局

平井鳥取県知事訪露（太平洋経済会議等ウラジオストク訪問）の結果について

平成２２年７月２１日
交　流　推　進　課

７月３日に開催された太平洋経済会議に参加するため、平井知事がウラジオストクを訪問した結果は次のとおりです。

１　第４回太平洋経済会議総会

（１）日時　　７月３日（土）、１０：００～１２：００
（２）場所　　ヒュンダイホテル（ウラジオストク市）
（３）内容
・政官財界要人約３５０名が出席して開催され、平井知事は基調報告者（５名）の一人として、ダリキン沿海地方知事、レヴィチン・ロシア連邦政府運輸大臣に続いて「北東アジア大交流時代における経済交流の発展」と題して基調報告を行った
・平井知事は基調報告の中で、北東アジア地域の経済発展の可能性が高まっていることを指摘した上で、本県が進める「北東アジアゲートウェイ構想」及び環日本海定期貨客船について説明し、本貨客船がシベリア鉄道と連携すればウラジオストクが物流網における「アジアの玄関口」として発展し、鳥取県とも連携したゲートウェー機能を果たすことができると述べたほか、「食のみやこ鳥取県」、観光情報、電気自動車工場進出などを紹介
・本総会終了後、ダリキン知事、レヴィチン大臣及び平井知事の３名が共同記者会見に臨み、それぞれ「鳥取県と友好交流を発展させている。環日本海定期貨客船を皆の力で育てていかねばならない」（ダリキン知事）、「沿海地方は北東アジア地域の物流拠点として発展する可能性があるため連邦政府として運輸政策を転換する時期である」（レヴィチン大臣）、「これからの時代は北東アジア地域が発展する新たなステップの時期であり、新航路を通じて新しい時代を開こう」（平井知事）と述べた

２　ゴルチャコフ沿海地方議会議長との面談

（１）日時　　７月２日（金）、９：００～９：３０
（２）場所　　沿海地方行政府
（３）内容　　ゴルチャコフ議長より、鳥取県を９月上旬に訪問したいとの希望が示され、平井知事は是非とも来県いただきたいと述べた

３　シェトニョフ・ハバロフスク地方副知事との面談

（１）日時　　７月２日（金）、１１：３０～１２：２０
（２）場所　　ヒュンダイホテル
（３）内容
・シェトニョフ副知事より、シュポルト知事が鳥取県訪問を強く希望しており本年中に実現させたいと発言があり、平井知事は是非とも鳥取県を訪問していただきたいと述べた
・ハバロフスクのホームページに鳥取県情報を掲載することへの協力要請があり、平井知事は、３地域（鳥取県、江原道、沿海地方）の情報のデータベース化を進めておりハバロフスクの情報も掲載したい、シュポルト知事来県時に情報共有の具体案を提案したいと発言

４　ウレイスキー沿海地方副知事との面談

（１）日時　　７月２日（金）、１４：００～１４：３０
（２）場所　　沿海地方行政府
（３）内容　　貨物輸出に係るロシアでの通関・植物検疫の円滑化について、平井知事が関係機関への働きかけを要請し、ウレイスキー副知事は協力していくと回答

5　経済関係者との面談

（１）日時　　７月２日（金）

（２）場所　　ウラジオストク市内

（３）内容

・第４回太平洋経済会議出席者である日系商社（三井物産、伊藤忠商事、三菱商事）と面談を行い、環日本海定期貨客船の説明及び協力依頼を行うとともに意見交換を実施

・リパエフ・ロシア連邦産業貿易省沿海地方支部長、サビノフ「ロシアの柱」沿海地方代表、ジモフ・ロシア動植物衛生監督局沿海地方支局長と会談し、通関、植物検疫、貨物輸送などの課題について情報共有し、相互協力して問題を解決していくことで一致

・ロシア郵便沿海地方支局を訪問し同郵便局内を視察。ロシア側より日露間の郵便に環日本海定期貨客船を利用することについて提案があった

6　ズブリツキー・ロシア平和基金極東支部長との面談

※ロシア平和基金：ロシア文化及びロシア語の普及活動並びに国際交流事業の業務を実施

（１）日時　　７月４日（日）

（２）場所　　ウラジオストク空港内

（３）内容　　ズブリツキー支部長より、ロシア平和基金の支部を鳥取県内に開設したい旨の提案があり、平井知事は候補地選定など協力していきたいと述べた

7　ソコロフ・アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館長との面談

（１）日時　　７月４日（日）午前１０時から午前１０時３０分

（２）場所　　アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館

（３）内容　　ソコロフ館長より、本年９月に訪露する県立博物館代表団の来館を心待ちにしていること、また訪問時には両博物館の協力に関する覚書を結びたい旨の発言があり、平井知事は覚書を締結できるよう準備を進めていくと述べた

8　その他

（１）山陰観光情報説明会（山陰国際観光協議会主催）

ア　日時　　７月２日（金）、午前１０時から正午

イ　場所　　ウラジオストク国立経済サービス大学

ウ　内容　　沿海地方観光旅行会社（３５名）に対して山陰観光情報を説明

（２）「ブラッド・エキスポ２０１０」（極東観光見本市）

ア　日時　　７月１日（木）～３日（土）

イ　場所　　ウラジオストク国立経済サービス大学付属スポーツ複合施設「チャンピオン」

ウ　内容　　山陰国際観光協議会と鳥取県がブースを出展し、観光・物産をＰＲした

（３）「因幡の傘おどり」の公演

ア　日時　　７月２日（金）～３日（土）

イ　内容　　学校・教育機関において「因幡の傘おどり」を披露したほか、中央広場で実施されたウラジオストク１５０周年創立記念行事にも参加団体の一つとして出演

モンゴル中央県の雪害に対する見舞金の贈呈について

平成22年7月21日
交流推進課

モンゴル中央県の雪害に対し、次のとおり見舞金を贈呈しました。

1　見舞金贈呈の概要

（1）贈呈日　7月8日（木）
（2）贈呈場所　モンゴル中央県政府
（3）贈呈相手　モンゴル中央県知事　ツェデブドルジ・エンフバト
（4）贈呈者　鳥取県文化観光局副局長　堀田利明
（5）見舞金　５０万円
（6）その他　・中央県知事が「交流先からの一番最初の支援」として鳥取県に謝意を表明
・見舞金は家畜喪失により生活困難となった遊牧民の生活保護に使用される
・中央県テレビ局等、現地マスコミが贈呈式の様子を報道

2　経緯・背景

モンゴルは今冬、例年にない豪雪と記録的な低温による雪害に見舞われ、家畜８５０万頭が死亡するなど、大きな被害に見舞われた。

本県の友好交流先である中央県においても大きな被害が発生しており、今般の北東アジア地方政府サミットにおいて、中央県知事から各地域首長に対し、支援の呼びかけがあった。

そこで、モンゴル中央県に対し、見舞金を贈呈することとし、交流事業協議にあわせ、モンゴル中央県政府において見舞金贈呈式を実施したもの。

3　中央県の雪害状況　※モンゴル中央県政府からの聞き取りによる

- 家畜80万頭余りが死亡し、364世帯が家畜全頭を喪失
- 現在は初夏の陽気となっており、寒さはないが、生活困難となった遊牧民の生活保護、死んだ家畜の埋葬作業が喫緊の課題となっている。

4　日本政府の支援状況

- 草の根・人間の安全保障無償資金協力（2件：合計約19.3万ドル）
- ノンプロジェクト無償資金協力の見返り資金の使用承認(約7.2億トグログ(約50万ドル))

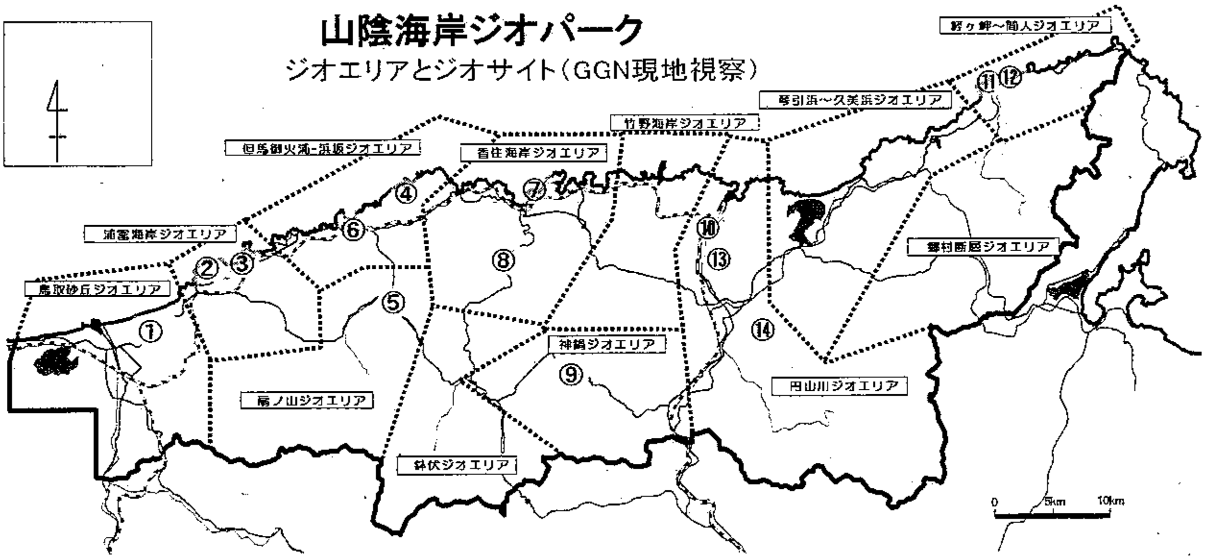
世界ジオパークネットワーク委員による現地審査日程について

平成２２年７月２１日
観　光　政　策　課

1　審査委員
・パトリック・マッキーバー氏（イギリス）<北アイルランド地質調査所職員・地質学者>
・ニコラス・ゾロス氏（ギリシャ）<エーゲ大学准教授・博物館長・地質学者>

2　審査日程
（1）　審査日程は、８月１日（日）から４日（水）までの４日間の予定。
<８月１日>　**①鳥取砂丘（鳥取市）**
<８月２日>　**①鳥取砂丘らっきょう畑（鳥取市）、②浦富海岸・③山陰海岸学習館・③渚交流館（岩美町）**、④三尾大島・⑤湯村温泉（新温泉町）
<８月３日>　⑥新温泉町山陰海岸ジオパーク館（新温泉町）、⑦遊覧船かすみ丸乗船・⑧香住鶴酒造（香美町）、⑨神鍋高原・⑩城崎温泉（豊岡市）
<８月４日>　⑪間人・⑫立岩・⑫大成古墳（京丹後市）、⑬玄武洞公園・⑭コウノトリ文化館（豊岡市）、意見交換会（豊岡市）
＊委員は日程案にこだわらず、その関心により１箇所で多くの時間を費やすこともあり、当日になって視察箇所が省かれる可能性もあるとのこと。

（2）　現地審査対応の体制は以下のとおり。
《全行程共通の対応者》
・日本ジオパーク委員会　２名
・山陰海岸ジオパーク推進協議会　若干名（英語通訳を含む）
《各視察先での対応者》
鳥取県内で対応するガイド等は次のとおり。
<８月１日>　①鳥取砂丘：鳥取砂丘ジオガイド、英語対応ガイド
<８月２日>　①鳥取砂丘らっきょう畑：山陰海岸ジオパーク推進協議会教育部会委員
②浦富海岸：岩美ガイドクラブ
③山陰海岸学習館：施設学芸員、英語対応ガイド
③渚交流館：施設職員



韓国ドラマ「アテナ」ロケ受入のための準備状況について

平成２２年７月２１日
国際観光推進課

１．概要

今年８月下旬から予定されている韓国ドラマ「アテナ」の鳥取県内でのロケが円滑に行われるようにするため、官民を挙げたロケ支援組織である「韓国ドラマ『アテナ』ロケ支援委員会」を設立しました。

また、ドラマ制作会社社長を本県に招き、県内の観光地等の視察及び地元関係者との面談を行い、より幅広く効果的なロケ実施に向けた提案を行いました。

２．韓国ドラマ『アテナ』ロケ支援委員会の概要

（１）設立日　６月２８日（月）（鳥取市内で設立総会を開催）

（２）設置期間　平成２２年６月～平成２３年３月

（３）設置場所　鳥取県庁内 緊急プロジェクトチーム執務室（本庁舎５階）

（４）役員　会長（１名）　鳥取県知事
副会長（２名）　社団法人鳥取県観光連盟会長、鳥取県文化観光局長

（５）会員　県観光連盟、旅行業関係団体、参加希望市町村・観光協会、広域連合等、とっとりフイルムコミッション、日韓親善協会、各商工会議所・商工会、民間企業、県等（設立総会には４２団体、７４名が参加）

（６）今後の活動内容
- 撮影候補箇所との連絡、撮影許可、規制に関する調整
- 各種物資、車両、重機の調達支援
- ドラマ制作後のコンテンツ活用、ロケ公式記録集の作成
- 制作会社、地元市町村、企業等との連絡調整　ほか

（７）予算規模　３４，８１０千円（県補助金29,800千円、市町村等5,010千円）

３．制作会社社長招へいの概要

（１）視察日程　７月４日(日)～６日(火)

（２）視察者　(株)テウォンエンターテインメント　チョン・テウォン社長ほか４人

（３）視察目的　韓国ドラマ「アテナ」のロケ地である鳥取県の視察、知事との面談

（４）視察先　鳥取砂丘、浦富海岸、東郷湖、三朝温泉、倉吉・白壁土蔵群、大山、皆生温泉、水木しげるロード、とっとり花回廊ほか

（５）知事面談　７月４日(日)19:15～20:15（於：皆生温泉）
＊知事、文化観光局副局長、西部総合事務所長、米子市長、大山町長ほかが出席し、ロケ地としての魅力をＰＲ。

（６）チョン・テウォン社長のコメント
- **いい場所が多すぎてドラマのシナリオを増やさなければならない。**
- **いい場所を選択してインパクトのある映像を撮りたい。**
- **秋田県以上に鳥取県が有名になるように努力したい。**

＜韓国ドラマ「アテナ」の概要＞

1	放送期間	平成２２年下半期予定（１１月頃から３か月の見込み）
2	あらすじ	大韓民国を脅威に陥れようとするテロの勢力。テロに立ち向かう特捜部要員の運命と、謎に包まれた特捜部女性要員との愛を描いたアクションドラマ。
3	主な出演	男優：チョン・ウソン（代表作「私の頭の中の消しゴム」など多数。人気男優。） 女優：スエ（代表作「あなたに逢いところ」など多数。）
4	制作会社	(株)テウォンエンターテインメント（韓国の映画・ドラマ制作会社）
5	ロケ地	韓国、イタリア、ニュージーランド、日本（鳥取県）
6	ロケ期間	８月下旬～９月上旬（３週間程度の見込み）

境港への国際クルーズフェリー誘致に向けたシンガポール企業との連携推進について

平成２２年７月２１日
国 際 観 光 推 進 課

１．概要

シンガポール企業の海外進出支援等を行っているシンガポール国際企業庁(政府機関)の仲介により、今般、シンガポールのクルーズフェリーターミナル運営会社である「SINGAPORE CRUISE CENTRE PTE LTD」(通称：シンガポールクルーズセンター)から、同社が中心となって設立準備を進めている「ASIA CRUISE TERMINALS ASSOCIATION」(通称：ACTA)への加入勧誘があり、鳥取県としては関係機関と相談のうえ同組織に加入する方向で事務手続を進めていきたいと考えています。

２．「ASIA CRUISE TERMINALS ASSOCIATION」(通称：ACTA)の概要

（１）設立予定時期　2011年の第１四半期

（２）目的・主な事業
a. クルーズ関連情報の共有
b. アジアへのＰＲや運営管理の共同化
c. アジアにおける国際クルーズ船、国際クルーズターミナル、港湾管理局、リゾート、旅行会社との連携

（３）加入が見込まれる地域

シンガポール、ベトナム、フィリピン、中国、韓国、日本

（４）期待される効果

○今後成長が期待できるアジアの国際クルーズ(旅行)市場の掘り起こし
○アジアクルーズ寄港地としての境港の存在感向上及び恒常的なクルーズ船の寄港
○境港へのクルーズ船寄港と連動した周辺観光の促進

（５）必要経費

入会金＄6,000USD、年会費＄10,000USD（いずれも未確定）

《シンガポールクルーズセンターの事業概要》
＊シンガポールにおける３つの港のクルーズフェリーターミナルの運営管理とともに、年間８百万人以上の顧客にサービスを提供。
＊年間約1,000隻(旅客約100万人)の国際クルーズ船を受け入れ。
＊また、市場調査・ビジネスモデルの提案等のコンサルタント業務にも取り組み、世界中のクルーズフェリー会社との協力や海岸開発事業への参加を積極的に推進。

３．今後の対応案

（１）シンガポールクルーズセンター及び関連企業(旅行会社、コンサルタント会社等)を本県に招き、国際クルーズ寄港地としての境港及び周辺観光地活用の可能性と課題について意見交換を実施（本年秋頃を目処)。

（２）上記(1)の結果を踏まえた基本計画作成及びACTA加入に係る予算を検討。